

明日の大地

北海道新篠津高等養護学校

学校だより

令和元年度 第4号 12月20日発行

Tel 0126-58-3280

HP <http://www.shinko.hokkaido-c.ed.jp>

進路指導部から

進路指導部長 西島 智子

今年は天皇即位の行事等により暦が特別な年となりましたが、各学年の現場実習においては、今年度も新篠津村はじめ近隣地域、また生徒の地元地域の事業所、保護者の皆様の御協力を得て執り行うことができましたことに感謝いたします。大きなトラブルもなく、個々が今後につながる課題を見つけ出すことができました。また、卒後支援の中から「金銭トラブル」「職場での人間関係」などの相談がありました。3年生の保護者には、卒業後、時折通帳を確認したり、お金の使い方を共に考える機会を是非もつようお願いいたします。進路先では、実習のときと職場の人事が変わっていることがあります。「あの人がいるから」では仕事が長続きしません。自分の仕事に「やりがいと自信」をもち、相談できる人(大人)を早く見つけることが大切です。そのためにも、新生活を御家族で大事に見守っていただけてますようお願いいたします。1・2年生につきましては、冬休み明けに進路希望調査の提出があります。外出時には身近な働く人の姿を話題にするのもよいのではないのでしょうか。今後も保護者、地域と協力体制をもちながら、進路決定と社会人生活を支援していきたいと思っております。

現場実習

* 第1学年 *

9月11日(木)から始まった6日間の実習は、大きな事故やけががなく無事終了することができました。「実際の職場で働く体験を通して、より実践的な力を身に付ける。」「働くことの大切さや厳しさに気付き、自分の進路に対する関心をもつ。」を目的に実施しました。初めての実習ということもあり生徒たちは緊張している様子でしたが、それぞれの目標を意識して頑張ることができました。今回の実習でそれぞれ課題が見つかったと思います。その課題を今後の目標にして頑張ってほしいと思います。保護者の皆様、御支援ご協力ありがとうございました。今後も引き続きよろしく申し上げます。

進路指導部 鈴木 貴志



* 第2学年 *

9/30-10/11に2学年の現場実習が行われました。昨年は地震の影響で3日間の短縮実習だったために、今年の実習は長く感じたかもしれません。2学年の実習は引率と単独に分かれ、前者は1年生時同様に教員の引率で事業所へ実習に行きます。後者は自宅から出勤し、帰宅まで自分一人で行います。学校での学習は練習で、現場実習は本番。本番で力を発揮できるように、日頃の学習にしっかり取り組んできました。充実感を得られた生徒も多かったようです。今回の経験と反省を来年の進路選択に生かしてくれることを願っています。

進路指導部 石川 卓哉



* 第3学年 *

進路指導部 木元稔敦



3学年の現場実習は、卒業後に「生徒を雇用する」、あるいは「生徒の利用を受け入れる」ことを、実習先に見極めてもらう「前提実習」となります。かなりの緊張感の中で実習をスタートした生徒が多かったようでしたが、巡回訪問で様子を見に行くと、学校では見られなかった元気の良い挨拶や、仕事内容を自ら確認する姿、「もっと実習を続けたい」といった発言などもあり、良い表情で取り組んでいる生徒を多く見ることができました。卒業後もこのような良い表情で過ごせるように、残りわずかとなった学校生活を社会人への良きステップアップへとつなげてほしいと願っています。

新高祭 学年発表

1 学 年

担当 三田村 祐 二

「2019 年秋新篠津」に取り組んで

本校の学校祭では、各学年共に演劇に取り組むことが増えてきました。演劇部の快進撃に触発された面も大きいのですが、演劇の手法を通して、他者になりきることで自己を見つめ直したり、自己表現の方法を考えたり、言葉遣いや態度を客観的に捉え直してみたり、仲間作りに一役買ったり・・・などなど、生徒達には演劇をきっかけに様々な事を見つめ直してくれば・・・と取り組んでいるのではないかと思います。今回、1 学年では入学以来の様々なエピソードを膨らませ、時系列的につなげて、生徒たちの成長の様子をご覧いただきました。生徒たちの頑張りを感じていただけましたか？ 様々な御感想をいただいておりますが、概ね好評だったようです。今回は初年度ということもあり、まだまだ手探りの指導でしたが、次年度は更に完成度を上げていきたいと考えています。



2 学 年

担当 山本 健 之

「青春ポイント」

今年のテーマは「青春」。SFファンタジーコメディに挑戦しました。生徒達は、過去の青春(保護者世代)を演じながら、どんな感想をもったでしょうか。若いエネルギーに満ちた時代は、誰にでもあるのです。演目練習に取り組んだのは約2週間と短い期間でしたが、生徒は集中力を発揮して台詞や動きを覚え、劇を完成させていきました。また、台詞や動きの表現にも意欲的に取り組み、表現への工夫が見られました。練習後半では、生徒同士で「どうしたらもっと良くなるか」をお互いに確認している様子が見られるようになり、劇の練習を通じた成長に、頼もしい一面を見ることができました。



3 学 年

担当 中山 飛 鳥

「感謝と希望と」

25 回生は穏やかで明るく、どんなことも素直に楽しむことができる素敵な学年。そんな学年と作りあげる舞台発表はいつも楽しさと感動を与えてくれました。今年のテーマは「今までの感謝と自分たちの歩く道への希望」でした。西遊記の登場人物に姿を変えても、個性豊かに自身を表現し、テーマを観客に届けました。3年生は学校という小さな世界から社会に羽ばたく時が近づいています。社会に出て、もっと広い世界を知って、色んな経験を、もっと沢山の人と出会って、これからも成長していく 25 回生を心から応援しています。



新篠津中との交流学习（1年）

担当 土 田 純 也

新高養1年生と新篠津中学校1年生の交流学习が10月17日に行われました。中学生のみなさん32名が本校を訪れ、各学科に分かれてそれぞれの作業学習を体験しながら交流をしました。初めはお互い緊張している様子でしたが、作業の手順を教えたり、一緒に作業をしていく中で、笑顔でコミュニケーションしている場面も見られるようになり、お昼までの短い時間でしたがお互いに充実した時間を過ごすことができました。



学校評議員会

副校長 佐 伯 正 文

11月28日(木)4名の評議員の方に御出席いただき、今年度2回目の学校評議員会議が行われました。学校からの説明事項は、「今年度の教育活動について」、「進路の状況について」、「特別支援教育のセンター的機能にかかる取組について」、「コミュニティ・スクールについて」、「学校評価について」と寄宿舎の見学でした。「今年度の教育活動について」では、体育大会や見学旅行、学校祭など学校行事の様子や、寄宿舎での行事や余暇活動の様子などを説明しました。また、今年度から導入したiPadを活用した授業の様子や新篠津村ふるさと納税返礼品への取り組みなども紹介しました。加えて、部活動の活躍やアビリンピックへの参加についても紹介し、本校の生徒たちがいろいろな場面で、生き生きと活動し、活躍していることを知っていただきました。評議員の方々からも、質問や御意見をいただき、今後の参考となりました。



全国障害者スポーツ大会

担当 成 松 智 也

去る10月14日から3日間、茨城県で開催される予定だった第19回全国障害者スポーツ大会は、台風19号のため全日程と競技が中止となりました。陸上競技部の福島選手・村上選手・田村選手、サッカー部の松本選手・立田選手にとっては残念な結果となりましたが、実力で獲得した全国への切符であることには何ら変わりはありません。これからの生活でも全国選抜選手らしく、他の仲間の手本となることを期待します。



新篠津卓球連盟会長杯争奪卓球大会

担当 坂下 佳恵



11月24日(日)、『新篠津卓球連盟会長杯争奪卓球大会』にOBを含めて7名の卓球部員が参加しました。そして、1年生の宝崎さんが「だれでもシングルス」部門で第2位に入賞、OB2名は「一般シングルス」部門で努力賞をいただきました。初対面の中高生、大学生や大人などとの対戦で緊張しましたが、全員、最後まで諦めずに戦うことができました。今後はまず、いろいろな回転サービスを練習し、来年の大会に臨みたいと思います。

演劇部全道大会

担当 山田 勇気

高文連全道高校演劇発表大会(釧路)

11月13日(水)に出発し、5泊6日の長期遠征。せっかくだから行くのだから釧路を満喫といきたいところでしたが、めまぐるしい日程をこなすため、ほぼホテルと文化ホールの往復の日々。そんな中にも5泊6日にいろいろなドラマがありながら、最高の舞台を作りあげ、出場校17校のうち最優秀賞に次ぐ優秀賞を受賞。さらに春季全国高等学校演劇研究大会(新潟)推薦校に。歓喜にあふれながらの帰路となりました。演劇部は3月の春季全国大会に向けて、さらにSHINGEKIして参ります。



全道障害者技能競技大会

担当 松本 紀子

10月5日(土)に、札幌市にあるポリテクセンター北海道で、アビリンピック北海道大会が行われました。本校からは、木工部門に2年木工科佐藤裕二さんが、縫製部門に2年家庭総合科田中彩李菜さんが出場しました。今大会に向けて、放課後や夏休み中にも練習を重ねてきました。当日は多くの出場者の集まる会場に圧倒されたり、いつもと勝手の違う作業台で少し戸惑ったりする様子もありましたが、練習の成果を出し切り二人とも見事入賞することができました。今回の結果はもちろん、それまでの自分の努力に自信をもって、これからの自分の糧にしてほしいと思います。



全国障害者技能競技大会

担当 松山 佳樹



11月14日～17日、愛知県常滑市で第39回全国障害者技能競技大会(アビリンピック)が行われ、3年木工科青木誠弥さんが出場しました。競技課題は手工具を使った「蓋付き小箱」の製作で、全国各地の予選を勝ち抜いた11名の選手が技能を競い合いました。残念ながらメダルには手が届きませんでしたが、全国大会という素晴らしい舞台で練習した成果を発揮することができました。今回の経験を今後の学校生活や社会人としての生活に生かしてほしいと思います。

長期休業前には1人5冊の本を借りることができるので、普段あまり図書室に来ない生徒も多く訪れます。中には、どの本を借りようか悩む生徒もありますが、「まず友達が読んでいる本を読んでみよう」と言って借りていくこともあります。友達が好きな本との出会いをきっかけに、新しい楽しみを見つけたり、知らない世界を広げたりできるのも、読書の良さだと感じます。図書室が、本に親しむ場としてだけでなく、生徒達の交流の場となることも期待して、多くの生徒に是非、図書室を訪れてほしいと思います。



PTA 厚生部より

校章リサイクルについてのお願い

PTA 厚生部の活動として、校章のリサイクルを行っております。校章を提供していただける保護者の方は、卒業式終了後に学級担任、または厚生部担当の松山・佐々木までお渡し下さい。御協力宜しくお願いいたします。



《編集後記》

今年は暖かい日が続き、降り積もった雪も溶けて歩きやすくなっていますが、例年年明けに大雪が降って大変な思いをしているので、今年度もどうなるのかドキドキしている今日この頃です。

来年は卒業制作に進級制作、各部活動の全国大会など様々な活動が控えておりますので、学校全体がONE TEAMとなって邁進していきたいと思ひます。

来年も素晴らしい1年になりますよう、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

